

『必要を満たす主』(ヨハネの福音書 6章 1-15節) 2020.9.13.

<はじめに> 5000 人を越える人々に、イエスがわずかな食料を用いて満たされたこの奇跡は、4 つある福音書すべてに記されています(マタイ 14:13-21、マルコ 6:30-44、ルカ 9:10-17、ヨハネ 6:1-15)。こんなことが今も起こるのでしょうか。

I 人を動かすもの

①大勢の群衆

人々がイエスについて行ったのはなぜでしょう。イエスが病人たちにされた奇跡を見たからとあります。それがイエスへの興味と期待に拍車をかけて、人から人へと伝わり、やがて大勢の群衆となって、イエスの後を追いかけて来ました。

②人々が抱える必要

人々は何をイエスに期待し、求めていたのでしょうか。病気に悩み苦しむ人は癒しと回復を求めたでしょう。教えと導きを求める人もいたでしょう。生活や社会の問題の解決を期待した人もあるでしょう。そしてこの山では、食事という目先の必要もありました。

③必要が救い主へと導く

問題に直面し、必要を抱えるのは私たちも同じです。その解決に尽力・奮闘することも大切です。それとともに、私たちが生きている場面に救い主イエスがおられます。そのことに気づき、この方に期待し、求めて見ませんか。

II 必要に応える主

①知っておられる主

大勢の群衆が来るのを見て、主イエスは彼らの食事に関心を払われ、それにどう答えようかとピリポに問われます(5)。彼らの必要を我が事として向き合われています。主の祈りにもそれは表れています。主はその重荷を弟子たちにも分かち与えられます。

②計算では間に合わない

ピリポは 200 デナリ(1 デナリは労務者 1 日分の賃金に相当)のパンでも間に合わないと予想します。アンデレが 5 つのパンと 2 匹の魚を持つ少年を見つけていましたが、焼け石に水です。しかし、主はアンデレが見出したパンと魚を取り、用いられました。

③用いられる主

必要に見合わない乏しいものを主は退けられず、むしろそれを活用されます。主に差し出された僅かを受け取り、感謝の祈りをもって祝福して用いられます。弟子たちにも分け与える役割を与えられます。主は私たちを用いて必要を満たされます。

III 必要以上を与える主

①欲しいだけ与える

「一人ひとりが少しずつ」(7)でも、ピリポの計算では厳しい情勢でした。しかし主イエスの御業は、彼らに「望むだけ」(11)「十分」(12)分け与えられました。主の供給は豊かで、人々の必要を満たします。私たちはどれだけ主に期待しますか(詩篇 81:10、16)。

②余りも無駄にしない

心していないと余裕は浪費を生みます。主は余ったパン切れを弟子たちに集めさせました。一つも無駄にしてはならないと言われます。集めたパン切れは 12 のかごに一杯になりました。そのかごは誰のものでしょうか。集めたパン切れはどう用いられたのでしょうか。

③何をしようとしているのか

6 節は思い巡らすべき言葉です。イエスご自身が何を目指し、しようとしているのでしょうか。群衆を満腹にすることも含まれていますが、それがゴールなのでしょうか。この物語には続きがあります。必要を満たす主が期待していることとは一体何なのでしょう。

<おわりに> 私たちの必要を主は知っておられ、求めに応じてくださいます。その経験を通して私たちは主を知ることができます。それとともに、主が願われることに私たちが心を向ける者でありたいものです。(H.M.)